

History 新野左馬助親矩

キラリを再発見

特別編

No.17

今川義忠菩提寺正林寺と塩買坂

今川義忠の菩提寺正林寺(菊川市高橋)では4月13日、開創500年大法要が営まれた。同寺は、永正14年(1517年)に今川氏親により、塩買坂で討ち死にした父の義忠を弔うために建立され、境内には義忠の墓がある。

今川義忠は、文明8年(1476年)、横地城を落城させた帰路に、新野と菊川市高橋の境にある塩買坂で、横地の残党に襲撃されて討ち死にした(『今川記』より)。このとき道案内を務めたのは、新庄地頭方堀野(牧之原市)の地頭高橋左近将監という人物で、義忠と共に戦死したとされる。高橋氏の妻は尼となり、新野の「天ヶ谷」に太陽山竜源寺を建立し夫の霊を弔ったため、この地を昔は「尼ヶ谷」といったとされる。

なお、この頃に新野氏と横地氏との間で戦いがあったという伝承はなく、新野氏の動向は不明である。



▲正林寺



▲正林寺にある今川義忠の墓(一石五輪塔)

大河ドラマ「おんな城主 直虎」
応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑥1129

Atomic

暮らしと原子力

原子力規制委員会による
H断層系の現地調査を実施

浜岡原子力発電所3、4号機の新規基準への適合性を審査している原子力規制委員会は3月27、28日に浜岡原子力発電所敷地内や敷地周辺の断層が発電所に与える影響を確認するため、現地を調査しました。

浜岡原子力発電所周辺にはH断層系と呼ばれる9本の断層が東西に走っています。一般的に、数十万年前から繰り返し活動し、また将来も活動すると考えられる断層のことを「活断層」と呼んでいます。

新規基準では、「約12、13万年前の地層、または地形面に、断層活動によるズレや変形がないこと」が確認できる場合、活断層ではないと評価しています。中部電力のこれまでの調査によると、H断層系の上層にある約12、13万年前の堆積地層は、地層変動

によるズレや変形がないことから活断層ではないと評価されています。

調査に参加した原子力規制委員会のメンバーは、それぞれの調査地点で断層面を手で確認したり、計器で地質を測定したりしました。調査後、石渡委員は「従来の地質調査の情報のみではなく、科学的なデータを積み上げることが必要」と話しました。



▲現地の断層面に触れて調査する